

トピック「海と安全」

## パラオ共和国へ供与の 40 メートル型巡視船 進水・命名式

～ミクロネシア 3 国の海上保安能力強化支援プロジェクト～



広大な排他的経済水域（E E Z）を持つパラオ共和国は、外国漁船の違法操業などにより海洋資源の減少や環境破壊が深刻な問題となっている。このため、パラオ共和国のE E Z内のパトロールおよび海難救助などの海上保安能力の強化に資するため、日本財団、笹川平和財団の支援のもと「ミクロネシア 3 国の海上保安能力強化支援プロジェクト」として、これまで 3 隻の小型パトロール艇を供与してきた。（「海と安全」No. 573・2017 年 6 月 15 日配信参照）

しかし、小型パトロール艇は機動力があるものの航続距離には限界があるため、より遠方での活動が可能となる 40 メートル型巡視船を供与すべく、その建造を広島県呉市の警固屋船渠を進めてきた。この巡視船の建造が順調に進み、このたび進水を迎えたことから、パラオ共和国の Tommy E. Remengesau jr（トミー・レメンゲサウ）大統領、同夫人を招いて進水・命名式が執り行われた。



式典会場に大統領（中央）、大統領夫人、駐日パラオ大使が到着

進水・命名式は、日本各地で暴風雨などの猛威を振るった台風 18 号が通過した 9 月 18 日に警固屋船渠内の浮きドックで開催され、大統領をはじめ、Francis Matsutaro（フランシス・マツタロウ）駐日パラオ大使、芦屋の海技大学校で巡視船の運航に向けて現在研修を受けている乗組員ならびに日本財団の有川孝・プログラムマネージャー、笹川平和財団の村上強志・特任グループ長、警固屋船渠株式会社の久留島匡繕・代表取締役社長および当協会の牛島清・理事長、ニッポンマリタイムセンターの浅井俊隆・所長など双方の関係者約 50 人が参加した。

式典は、神主による祝詞や玉串奉奠など日本式で行われ後、パラオ大統領が巡視船を「K E D A M（ケダム）」と命名、続いて大統領夫人が巡視船とつながっている支綱（しこう）を斧で切断、シャンパンが見事に割れ「K E D A M」の航海の安全と今後の活躍に期待を込め、参加者全員が拍手を送った。

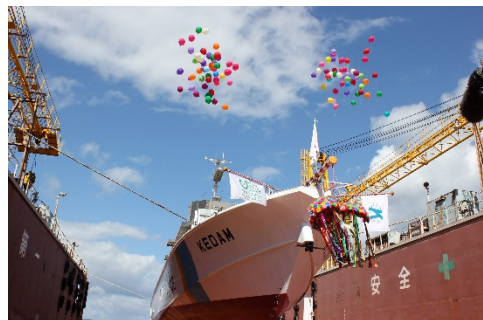
式典に引き続き、大統領一行は「K E D A M」の船体を見学。本船の仕様について、日本財団の有川氏とともに当協会ミクロネシア 3 国担当の竹内行広・研究統括部長が説明、大統領は特徴的な 5 翼のスクリューに関心を持ち、熱心に説明を聞かれていた。

式典終了後に行われた祝賀会では、日本財団、笹川平和財団および当協会を代表して牛島理事長が「日本財団を筆頭に、2008 年からパラオ共和国の海上保安能力強化の支援事業に取り組み、海の保護をより一層強化するため昨年 40 メートル型巡視船の供与について合意された。本日、大統領により命名された巡視船「K E D A M」がパラオの広大な E E Z の継続的な監視活動を可能にし、安全で健全なパラオの海を次世代に引き継ぐことに寄与するものと信じている。ついては完成までもうしばらく掛かるが関係者の皆さんには引き続きご協力をいただき、「K E D A M」の建造が安全に終了することを祈念申し上げます」とあいさつ。

また、大統領からは「パラオ人にとって海はすべてで、このため国旗も青い海と月がデザインされている。この巡視船は両国の友情の証であり、これから私たちの島々を守り、未来を守るという重要な役割を担うことになる。また、船名の『K E D A M』とは、とても大きな鳥で、パラオでは特別な鳥。大空を旋回しながら海上で何が起きているのかを見通す広い視野を持っており、テリトリーを守るため勇敢な行動をする。このことは、広範囲な我が国



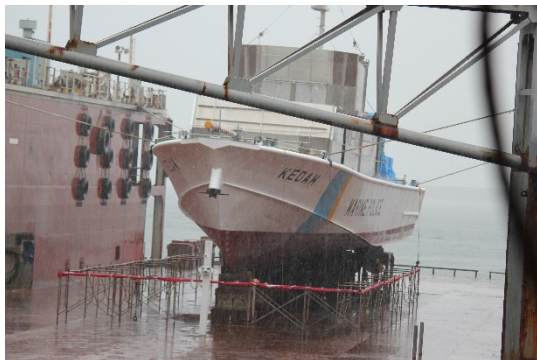
安全祈願の玉串を奉奠する牛島理事長（日海防）



大統領から「KEDAM」と命名された巡視船

のEEZを巡視し守る巡視船の任務に通じるものがあり、この巡視船の完成をとて楽しみにしている」と述べられるとともに、巡視船の建造にあたり、日本財団、笹川平和財団、日本海難防止協会の惜しみない協力・支援と本船の建造を着実に進めていただいている水産エンジニアリングおよび警固屋船渠に対し感謝のコメントがあった。

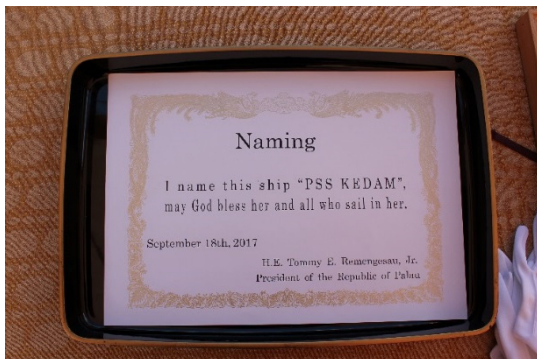
なお、巡視船「KEDAM」は船橋などの艀装を引き続き行い、年内にはパラオ共和国に回航する予定で、現在パラオ共和国で建設中の新庁舎および係留施設とともに供与され、パラオ共和国のEEZ内パトロールや海難救助対応などの海上保安任務に就くこととなっている。



式典前日は台風18号の影響で大雨



KEDAMの特徴の一つ、5翼スクリュー



大統領が読み上げた巡視船の命名書



マスコミのインタビューを受ける大統領と日本財団の有川氏



祝賀会で命名の理由をスピーチする大統領



祝賀会で久留島社長より、式典で使用した斧（レプリカ）を大統領夫人に贈呈